

子どもの本と文化を、子どもの未来のために—

平成26年度

事業報告

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

平成26年度 事業報告

平成26年度、当財団は公益財団法人 日本青少年文化センターが主催される「第37回巖谷小波文芸賞 特別賞」を受賞いたしました。これは、当財団の長年にわたる研究分野での取り組みが認められたものであり、大変栄誉なことでもあります。今後とも、児童文学、児童文化の振興のため、諸事業に邁進する決意を新たにしております。

2011年と2013年に相次いで他界されました、お二人の元当財団特別顧問、中川正文先生、鳥越信先生の業績を顧みるフォーラムを、平成24年度と26年度に開催することができました。それぞれ当財団の礎を築いていただいただけでなく、日本における児童文学研究、絵本研究、子どもの読書活動の普及のために大きな足跡を残されましたお二人の業績を顧みることは、これからの子どもの本のありようについて考えるうえでも、大いに意義のあるフォーラムであったと自負しています。

国際講演会は、初めて国立国会図書館 国際子ども図書館と大阪府立中央図書館との共催事業として、ドイツの児童文学者 クラウス・コルドン氏を招へいし、開催いたしました。これまで、国際講演会については、当財団の単独事業として、企業からの協賛をいただき実施してきましたが、新たな展開として、それぞれの機関としても有意義であると考え、27年度も引き続き共催で実施することとし、現在準備を進めているところです。

また、当財団は従前から大阪府および中央図書館と緊密に連携・協力を図り、「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」が、貴重な資料を収集・保存・活用し、円滑に事業を実施できるよう、必要な役割を果たしてまいりました。特に、「国際児童文学館」の非常勤専門員の雇用および寄贈資料の受入れ業務について、それぞれ継続されたところでもあります。しかし、専門員の雇用については、平成27年度が最終年とされており、以降の体制のあり方は「国際児童文学館」の円滑な事業実施のために極めて重要な課題であります。大阪府および中央図書館と引き続き協議してまいります。

その他の事業についても、これまでどおり幅広く展開してきましたが、子どもゆめ基金助成による教材開発事業など、新規事業にも取り組んだところです。その結果、財政規模は、補助事業が大きく拡大した前年度の反動減はありますものの、約5百万円、2割減にとどまっています。

平成26年度決算における単年度収支は、約310万円の赤字となり、平成25年度に引き続き3百万円台となり、以前の約7百～9百万円の赤字と比べ、大幅に改善することができました。まだまだ臨時的な要因によるところが大きく、厳しい状況に変わりはありませんが、将来的にできるだけ安定的な運営ができるよう努力してまいります。

なお、「公益目的支出計画」の進捗状況につきましては、計画の収支差額 約11百万円に対し、決算額は約430万円となっています。ただし、支出の額では、計画 約19百万円に対し、決算額は約18百万円余りで、達成率は96%となっています。

個々の事業については、平成26年度事業計画にもとづき以下に報告します。

○役員会等の開催状況

1. 評議員会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	26.5.23	(1) 評議員の選任について
第2回	26.6.24	(1) 平成25年度事業報告について (報告) (2) 平成26年度補正予算について (報告) (3) 平成25年度収支決算について
第3回	27.3.19	(1) 基本財産の処分について (2) 平成27年度事業計画について (報告) (3) 平成27年度収支予算について (報告) (4) 平成26年度事業の執行状況について (報告)

2. 理事会

回	開催年月日	議 事 内 容
第1回	26.4.14	(1) 平成26年度第1回評議員会の招集について
第2回	26.6.13	(1) 平成25年度事業報告について (2) 平成25年度収支決算について (3) 平成26年度補正予算について (4) 平成26年度第2回評議員会の招集について
第3回	27.3.19	(1) 平成27年度事業計画について (2) 平成27年度収支予算について (3) 基本財産の処分について (4) 一般財団法人大阪国際児童文学振興財団の役員等の報酬等に関する規程の一部改正について

[公益事業の部]

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめることにより、子どもの読書活動を推進した。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：19回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：教員（4回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（12回）、司書・学校司書（3回）

(2) おはなしボランティア ステップアップ講座

大阪府域のおはなしボランティアを対象にしたステップアップ講座を行った。

- ・開催日：平成26年5月23日（金）～7月4日（金） 全5回
- ・場所：大阪府立中央図書館
- ・内容：絵本を選ぶ、読む、プログラムを立てる等
- ・講師：川内五十子、土居安子
- ・対象：読書活動ボランティア等
- ・参加者：30人

*子どもゆめ基金助成事業

(3) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

①講演会「ドイツの児童文学作家クラウス・コルドン講演会 わたしの物語作法ー“古き”ベルリンの若者たちの今」の実施

- ・開催日：平成26年11月30日（日）
- ・場所：大阪府立中央図書館
- ・内容：児童文学作家の講演会
- ・講師：クラウス・コルドン（ドイツの児童文学作家）
酒寄進一（ドイツ文学者、翻訳家）
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：82人

*主催：国立国会図書館 国際子ども図書館・大阪府立中央図書館・
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

*賛助企業：近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、
パナソニック株式会社、ムサシ・アイ・テクノ株式会社、
株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポート

②フォーラム「フォーラム：児童文学とは何かを問い続けてー児童文学者 鳥越信の仕事を顧みる」の実施

- ・開催日：平成27年1月31日（土）

- ・場 所：大阪府立中央図書館
- ・内 容：児童文学者 鳥越 信の業績を顧みることによって、児童文学・児童文化の歴史をふりかえり、これからの子どもの本のありようについて考えるフォーラム
- ・講 師：宮川健郎（武蔵野大学教授）
向川幹雄（兵庫教育大学名誉教授）
森久保仙太郎（翻訳家、絵本研究家、作家／ビデオ出演）
- ・コーディネーター：三宅興子
- ・対 象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：93人
- *後 援：大阪府立中央図書館・日本児童文学学会
- *子どもゆめ基金助成事業

(4) 子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。 33回

子どもの本を楽しむ会（10回）

保護者向き児童文学・絵本講座・フォーラム（11回）

第10回大阪こども「本の帯創作コンクール」

第24回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）

平成26年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

第33回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

大阪いずみ市民生活協同組合「コープのえほんでスマイル」専門委員会 他

2. 本と子どもを結ぶ活動

(1) 学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計7件実施した。

小学生（3件）、少年自然の家他公共施設（3件）

子ども童話体験交流2014（於：日本 1件）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

大阪府域の児童養護施設でおはなし会（6回）と人形劇（2回）を開催した。

（計8回）

*一般財団法人 高津成和会助成事業

(3) 図書館等でのおはなし会・人形劇の実施

①大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会と人形劇を開催した。

出 演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

おはなし会 6回、人形劇1回

②吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会を実施した。（2回）

出 演：職員、おはなしポップ

(4) 図書館等での街頭紙芝居の実施

・事業名：懐かしの街頭紙芝居～「少年ローン・レンジャー」とその時代～

・日 時：平成27年1月25日（日）

- ・場 所：大阪府立中央図書館
- ・講 師：畑中圭一（童謡詩人、児童文学研究者）
- ・出 演：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館
- *主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館
一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
- *協 力：一般社団法人 塩崎おとぎ紙芝居博物館

(5) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成 19 年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向きイベント「おはなしモノレール」を実施した。

- ・日 時：平成 26 年 11 月 9 日（日）
- ・定 員：240 人（申込者：592 人 約 2.5 倍）
- ・参加費：500 円
- *協 賛：大阪高速鉄道株式会社、阪急不動産株式会社、
株式会社ベネッセコーポレーション
- 協 力：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会
- *子どもゆめ基金助成事業

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

- ・回 数：3 回（自主研修・打ち合わせ研修）
- ・対 象：平成 26 年度ボランティア登録者
- ・内 容：おはなしの語り方、絵本の選び方、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録者に、上記 2 「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配付等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：18 名
- ・活動回数：17 回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1 回）、大阪府立中央図書館（6 回）、
吹田市立山田駅前図書館（2 回）、児童養護施設（6 回）、
EXPO'70 パビリオン（2 回+展示受付 16 日）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：4 名
- ・活動回数：3 回
- ・活動場所：おはなしモノレール（1 回）、大阪府立中央図書館（1 回）、
児童養護施設（1 回）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第31回 日産 童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数：童話 2,457点（前年 2,321点） 絵本 370点（481点）
計 2,827点（2,802点）
- ・予備審査：平成26年11月14日（金）～17日（月）
- ・本審査：平成26年12月6日（土）、7日（日）
- ・表彰式：平成27年3月7日（土） 大阪府立中央図書館
- *協賛：日産自動車株式会社

III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

1. 「ほんナビきっず」の開発・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通システムズ・アプリケーション&サポートとともに開発したが、今年度も図書データの追加更新と普及に努めた。
新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：1,564冊

2. 「ドキドキ絵本づくり for Kids」の普及

平成25年度にウェブサイト上で、絵本について学ぶことができ、実際に作ってみることができるコンテンツを「ドキドキ絵本づくり for Kids」として開発したが、今年度はちらしの配布、ワークショップ等を通して普及を行うと同時に、子どもの作品のアップロードを行った。

3. 「本の海大冒険」リニューアル開発・普及

ウェブサイト上で、子どもがクイズをしながらお気に入りの本をさがすことのできる読書活動支援ソフト「本の海大冒険」をリニューアルし、スマートフォン・タブレット等さまざまな媒体で見ることができるサイトに再構築・普及した。

*子どもゆめ基金助成事業

IV 子どもの本を通じた国際交流事業

海外の作家を招いた講演会や、海外への日本の児童文学の情報提供及び海外との子どもの本に関する資料の交換を行うことにより、国際的な視野での読書活動推進を行う。

1. 国際講演会（再掲）

講演会「ドイツの児童文学作家クラウス・コルドン講演会 わたしの物語作法ー“古き”ベルリンの若者たちの今」の実施

- ・開催日：平成26年11月30日（日）
- ・場 所：大阪府立中央図書館
- ・内 容：児童文学作家の講演会
- ・講 師：クラウス・コルドン（ドイツの児童文学作家）
酒寄進一（ドイツ文学者、翻訳家）

2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」（英文レポート）を電子メール等で、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ① 国際児童文学学会（オーストラリア）
- ② 国際児童図書評議会（カナダ）
- ③ フィンランド児童文学研究所
- ④ ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ⑤ グリム博物館（ドイツ）
- ⑥ スウェーデン児童文学研究所
- ⑦ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑧ Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑨ 建国大学 童話と翻訳の研究所（韓国）
- ⑩ 浙江師範大学 国際児童文学館（中国）
- ⑪ アメリカ議会図書館（アメリカ合衆国） 等

V 国際児童文学研究賞（国際グリム賞）事業

世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。平成26年度は、第15回受賞者の選考を行った。

- | | | |
|--------|---------|----------------|
| ・アンケート | 発送 | 平成26年10月1日（水） |
| | 締め切り | 平成26年11月30日（日） |
| ・選考 | 第1次選考会議 | 平成26年12月27日（土） |
| | 第2次選考会議 | 平成27年3月17日（火） |

*主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
一般財団法人 金蘭会
大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

VI 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会への参画

大阪府が推進する「第2次子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、標記協議会に委員として参加し、会議に出席した（2回）。

VII 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「研究紀要」で発表するほか、当財団のホームページに登載するなど広く普及し活用を図る。

○「近代日本児童出版文化史の研究

—明治期における博文館出版文化の内容と特質—

博文館の児童出版文化についての調査研究を外部研究者とともに行った。

(研究分担者)

- ・研究会（4回 平成26年5月4日、7月19日、10月11日、平成27年1月10日）
- ・『大阪国際児童文学振興財団 研究紀要』第28号（論文1本、研究ノート1本）
- *独立行政法人日本学術振興会 科学研究費補助金事業 基盤研究（C）
（研究代表者：遠藤 純、平成26～28年度）

2. 出版企画・展示企画

(1) 「第30回 日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品『カエルと王かん』
 - ・絵本大賞受賞作品『きいちゃん』
- B L出版（株）と提携 平成26年12月刊行

(2) 博物館、文学館等における展示企画

- ・日 時：平成26年8月30日（土）～9月15日（月・祝）10時～17時
 - ・場 所：EXPO'70パビリオン（吹田市万博記念公園内）
 - ・テーマ：子どもの本の展示とイベント「森と友だちになろう！」
 - ・内 容：「森」をテーマに、グリムの絵本、宮沢賢治の本、森の生き物の本、森の環境を考える本などを展示。
おはなし会「森のおはなし」（9月7日）
ワークショップ「森の絵本を創ろう」（9月13日）の開催
 - ・参加者：12,595人
 - ・展示リスト、ブックリストの配布
 - ・後 援：大阪府立中央図書館、一般社団法人 関西環境開発センター
- *日本万国博覧会記念基金助成事業

3. 論文集「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第28号の発行

論文の公募を実施 5本

特別研究員および当財団職員による論文等 2本 計7本掲載

4. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は7名。上記1の共同研究等への協力を得た。

VIII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・整理業務及び閲覧に必要な参考資料
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

IX 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業等

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページを日常的に更新し、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきつず」の管理・運営
- ③ 「子どもの本 いま・むかし」「本の海大冒険」「日本の子どもの本 100 選」「ドキドキ絵本づくり for Kids」の管理・運営
- ④ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

毎月1回（20日頃）発行。

登録会員数：1,644人（平成27年3月20日現在）

2. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ、事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) レポートの発行

財団の1年間の活動状況を報告するレポート「大阪国際児童文学振興財団 REPORT No.4」を発行した。年1回

3. 寄付金募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

平成26年度実績 177件 1,541,081円

[収益事業の部]

I 企業等が行うイベントや出版・展示に協力する事業

子どもの本の発行や、子どもと本を結ぶ事業を行なおうとする企業・団体等から業務委託を受ける。

○出版企画

(1) 出版社等による図書出版にかかる企画・制作業務の受託

博文館創業120周年記念「少年少女譚海」の復刻のための調査、企画会議等を行った。

委託元：株式会社博文館新社

(2) 出版社等による図書データ作成・企画協力業務の受託

「進研ゼミおすすめ本1000冊」推奨本の追加・変更100冊を選定した。

委託元：株式会社ベネッセコーポレーション

(3) 出版社等による企画協力業務の受託

・「コプのえほんでスマイル」絵本選定、ガイドブック原稿作成

委託元：大阪いずみ市民生活協同組合

・「ムジカノーヴァ」8月号「ピアノ教室夏休み推薦図書」原稿執筆

委託元：株式会社音楽之友社

II 出版物の販売及び著作権管理にかかる事業

1. 当財団発行の出版物の販売

事業報告集や「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」等を販売した。

国際交流事業報告集 46冊

フォーラム報告集 12冊

アジアの論文集 10冊

研究紀要 26冊

2. 著作権管理に関する事業

「日産 童話と絵本のグランプリ」受賞作品等の著作権管理を行った。

III 児童文学等に関する寄贈図書資料受入事業

大阪府立中央図書館から寄贈資料の受入れに関する業務を受託し、出版社等からの寄贈資料にかかる受入れ業務を行った。受け入れた資料については図書館に引き渡し、図書館内部の手続きを経た後、大阪府立中央図書館 国際児童文学館に受け入れられた。

引渡件数：図書 3,453冊、雑誌 3,328冊、その他資料 853点 計 7,634点

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成27年6月

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団